

# ようこそ新たな市場に

調査士による地図（不動産）情報研究会  
全国JOネットワーク  
基本構想

1

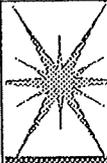
皆さんこんにちは

全国JOネットワーク、並びに調査士による地図（不動産）情報研究会の発起人の中川壽一です。

本日は1995年ももう後一ヶ月を残すのみで、なにかとお急がしいときにこのような時に、このような企画をして、全国50会の皆さんに呼び掛けたところ、31会の会員皆さんからネットワーク若しくは研究会に参加の意思表示されたひとに合計175名です。その内128名の皆さんがここにおられます。

JOネットワークの意味はJoint・Officeの頭文字とり、意味は合同とか共同とか手をつなぐ事務所です。ネットワークに加入していない人は、これからはじまる研究会に参加してみて、判断してください。

もう既に設立趣意書等で御案内のとおりですが、もう少し詳しく説明させていただきます。



## ビジョン

- 〇 新たな市場の開拓と価値の創造
- 〇 GISを意識した素図の作製とメンテ
- 〇 現地（不動産）情報をGISにのせて発信
- 〇 地域社会に情報の管理システムを提案

2

戦後50年が過ぎ、今大きく変わろうとしています。それも考えられないくらいの早さです。

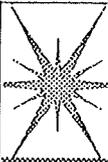
規制緩和、行政改革、透明性、価格破壊が喧伝せれています。国に守られている資格業務だけは関係ないのでしょうか？大いに関係があると思います。日常の調査士業務は規制の恩恵で成り立っているのかもしれない。今回、全国を回って見て、価格破壊の声が聞こえます。

戦後ずっと右上がりの経済が続いてきましたが、若しかしたら、日本は峠は越えているのかも知れません。団塊の世代の私ですが、今若干の余禄がある内に「新たな市場の開拓」をする必要があると思います、今回の呼掛けをしたしだいです。

しかし、それが業界エゴと思われる「権益の確保」を叫ぶだけの集団であってはなりません。われわれの業務が国民生活の向上に役にたつこと。つまり「価値の創造」でなければならないと思います。

それには発想の転換し、今までの「一筆の土地、一棟の建物」から「地図を意識した」日常業務への転換です。日常生活をおくっている「フィールド」つまり「地域社会」を意識することです。皆さんの足元をもう一度見つめて、調査士として地域社会に何が提供できるのか？それも「価値を生む」はなにだろうか？という発想です。

地域社会の地図整備と個々の不動産情報を収集・整理することです。



## 目標

- ㊦・松本大会の具現化
- ㊦・現地・地域社会に根差した足腰の強い「職能集団」
- ㊦「1万平方キ。」1人5平方キ。2000人のネットワーク
- ㊦・目標完成年月日 西暦2000年12月31日

3

目標は

\* 松本大会宣言の具現化です。

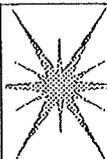
わたしたち調査士は、昨年10月、長野県松本市において、「国民の立場に立って業務を行い、境界標の設置を積極的に推進し、国民の利便に資する地図作りへ積極的に挑戦する」という姿勢を鮮明にいたしました。

その具現化を「どのような手法で、いつまでに完成させるか」の研究が「調査士による地図（不動産）情報研究会であり、実現させる組織の一つが全国J〇ネットワークでありたいと思います。

寄り具体的に言いますと、

\* あくまでも現地・地域社会に根差した足腰の強い「職能集団」が各自のフィールド約5平方キ。の地図を約2000人で今後、5年向こうの西暦2000年12月31日までに完成させることです。

とんでもない大風呂敷とお思いかも知れませんが、今日参加の皆さんがその気になれば必ずできます。それでは具体的に説明します。



## 業務（１）「GIS・不動産 情報」について

⌘ 地図＝精度にこだわらず、取り敢えず「データベース（素図）」即ち「インデックス・マップ」からスタートし、PC等の技術の進歩に合わせて、段々バージョンアップする。

⌘ 一人当り5平方キ。～10平方キ。の地域社会の不動産の情報を収集整理する。

7

それではどのような業務をしようとするのかを説明します。

私達、調査士が地図と言えば即＝精度、復元と言ってきましたし、今も同様かも知れません。確かに地図の役割はそこにあるかもしれませんが、しかし、一方では、相変わらず100年も前の地図を使って業務をしています。

まあそれでもなんとか日常業務ができているということは、本来地図はその程度（公図）でもよかったのかも知れません。そこで地図＝精度・復元にこだわらず、取り敢えず「何番の土地がここにありますよ。その土地はだれだれさんのものですね」先ほども言いましたように、「土地の所有関係を最も適切に表現している地図」・素図つまりインデックスマップからスタートし、パソコン等の技術の進歩に合わせて、段々精度・復元ができる地図を目指す。という手法です。

言葉が適切でないかもしれませんが、精度などはいいかげんでいいから、一人当り5平方キ。から10平方キ。の範囲で地図（素図）とその地域社会のいろいろな不動産の情報も含めて収集、整理をしてみませんか。ということです。